



春日小だより

平成30年9月3日
練馬区立春日小学校
校長 水井 清
学校通信 9月号

「ふれあい」を通して学ぶ

校長 水井 清

長い夏休みを終えて子供たちが、学校に戻ってきました。プールなどで日焼けした子、読書や博物館巡りなどで想像力や好奇心を膨らませた子、家庭の仕事に責任をもって実行し家族の一員としての自覚に目覚めた子など、どの子も一層たくましく成長しました。子供たちを温かく見守り、ご指導いただきました保護者・地域の皆様に感謝申し上げます。さあ、2学期のスタートです。

さて、私たちのごく身近な文化に、古くから地域社会で受け継がれてきた「行事」「遊び」「祭り」などがあります。これらは、ふれあいを通して人から人へと伝えられてきました。ふれあいを通して、作法・やり方・技だけではなく、心や心意気などの人間の温もりといったことまで受け継がれてきたのではないかと思います。また、教え教えられるという関係の中で人に対する見方や考え方、そして自分自身を見つめ直してきたのではないのでしょうか。私たちの生活・子供たちの生活を振り返ってみますと、こうした形での文化の継承や創造がずいぶんと少なくなっているように思います。

子供たちの「遊び」を考えますとずいぶん変化してきたように感じます。外遊びから内遊びが多くなり、テレビゲームやインターネット等個別化した「私だけ」に偏った遊びが目立ちます。その結果、人の心がわかりにくくなっているように感じます。例えば、約束を違えても案外平気です。かつては、友達の家まで謝りに行く子が多かったはずですが。約束を忘れてしまったり、違えたりすることは、昔も今もたくさんあります。しかし、そのことに気付いたときの心の有様が、全く違うように感じます。

また、物を活かして使おうとしなくなったように思います。物を大切にする気持ちやもったいないという心が育っていないのかもしれないかもしれません。頭ではわかっている生活の中で体験し活かすことが少ないことが、原因のひとつだと思います。古い物を安易に捨てて、まだ使える物に見向きもしません。物があふれ、買い換えも容易にできるからかもしれません。

こんな生活の中で、気の合う友達を失ったり、気に入った物をなくしてしまったりしたら、何もできなくなってしまいます。それではどうしたらいいのでしょうか。私は、ふれあいを通して自分自身と向き合う体験が必要だと思います。「行事」は絶好の機会です。2学期もたくさんの行事を実施します。5・6年生は移動教室に出かけます。11月には学芸会を実施します。「行事」を通してふれあうことの体験を積み重ね、友達を思う気持ち、物を大切にする心を育てたいと思います。

春日小学校では、保護者や地域の皆様のご要望もあり、学芸会を平成28年度に復活させました。子供たちの成長のために活躍の場を増やし、それぞれの行事のねらいが十分に達成できるように、学芸会・音楽会・展覧会の3つの行事を1年ごとに実施する予定です。従って、平成30年度は学芸会、来年度は音楽会、再来年度は展覧会となります。ご理解とご協力をお願いいたします。